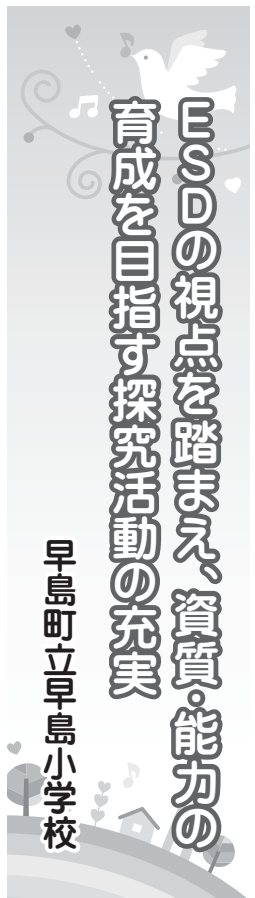


広げよう！優良実践の輪！

～平成30年度 優良実践校の取組～

取組 9



1 はじめに

本町は、昔、畳表の原料であるいぐさの栽培で栄え、今は物流、交通の要衝の地として発展しています。人口は約1万2千5百人、県内の市町村としては最小の面積ですが、人口密度は県内1位です。本校は全校814名で、児童は素直で何事にも一生懸命取り組むことができる一方で、地域の行事や人とのかわりに関心が低い傾向にあります。

2 取組の概要

(1) ESD (持続可能な開発のための教育) の視点を取入れた生活科、総合的な学習の時間の授業改善

研究主題を「地域とつながり 未来を拓く はやしまつ子の育成」ESDの視点を踏まえた保・幼・小・中連携カリキュラムの構築」と設定しました。早島町学校教育ビジョンのもと、

確かな学力を身に付け、広い視野と高い志、たくさんの夢をもつためには、校種を越えた結びつきや、それを支える地域との協働が不可欠です。また、児童・生徒に育みたい資質・能力として「自立」「共生」「郷土早島を愛する心」を掲げて、ESDの研究に取り組むことで、一貫教育の充実を図っていくことにしました。

(2) 指導計画の見直しと探究活動の充実

2年間の主な取り組みとして、以下の4点を行いました。

- ① 探究的な学習活動の見直しと年間指導計画の再構築
 - ② 育てたい力を明確にした学習プログラムの作成
 - ③ 評価規準表(グレード表)の作成
 - ④ つけたい力を明確にしたESDカレンダーの作成
- ESDの視点で重視する6つ



探究的な学習の中で、台風の進路を予測し、災害への対策を考える様子

の構成概念と、7つの能力・態度と、新学習指導要領の3つの柱(個別の知識・技能、思考力・判断力等、学びに向かう力・人間性等)との整理を行い、付けたい力を明確にした「単元学習プログラム」を各学年で作成するとともに、幼稚園・中学校との校種を越えた連携カリキュラムも作成しました。

(3) 発信の場の設定

授業での学びを、「子ども議会」「熟議」「子どもフォーラム」等で、地域提案として発信することで、地域への愛着やつながりを深めています。

3 成果と今後のさらなる取組の充実

身に付けたい力を明確にした指導を行ったことで、児童・生徒の探究への意欲が向上し、地域へ愛着をもつことができました。また、地域に向けて発信したことで、町民の方々にも様々な形で児童・生徒に関わっていただくことができ、児童・生徒のがんばる姿を届けられました。今後は、SDGsとESDとの関係性を明確化し、小学校での学びを活かした中学校でのカリキュラムの再構築を行ったり、教師の指導力向上を図ったりすることで、児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現していきたいと思えます。



子どもフォーラムでIGUSAのよさを劇で紹介している様子

(校長 越宗 倫生)